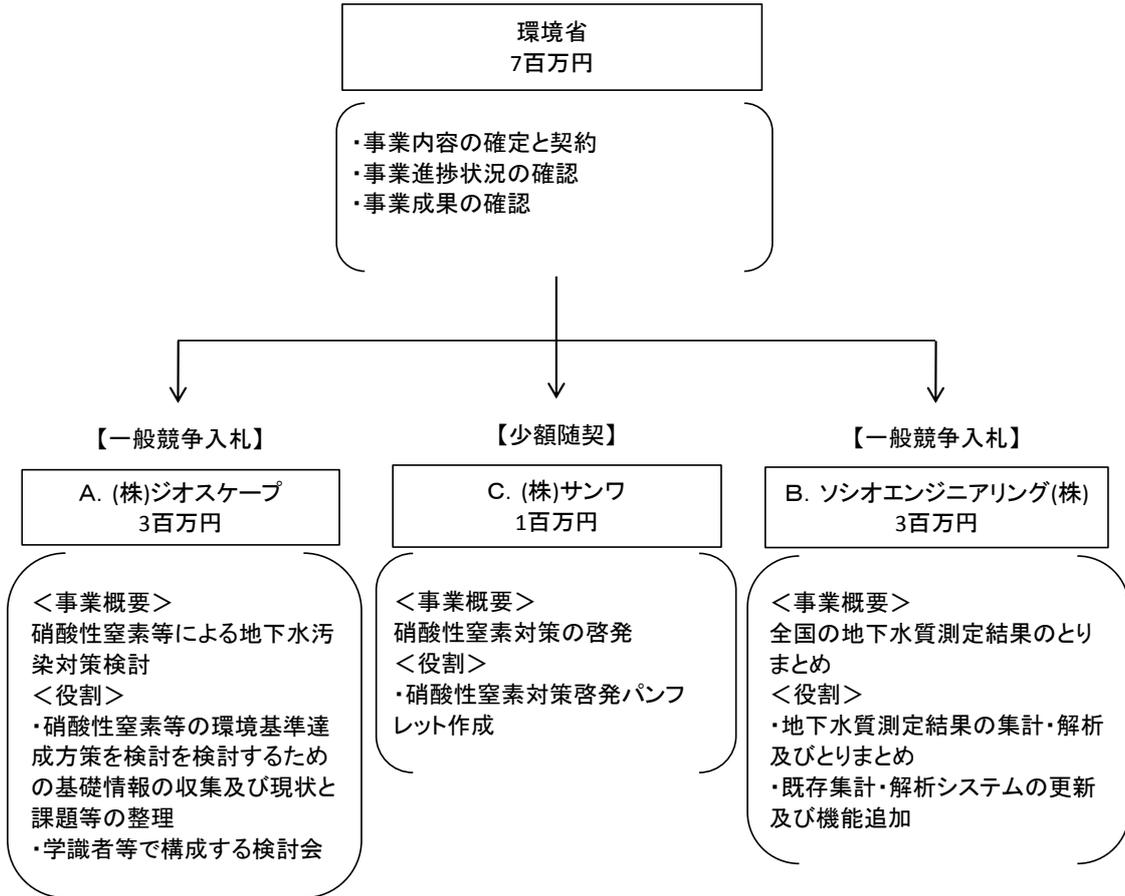


行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	硝酸性窒素対策等地下水質管理的確化調査	事業開始年度	平成20年度	作成責任者		
担当部局	水・大気環境局	担当課室	土壌環境課 地下水・地盤環境室	室長 竹本 明生		
会計区分	一般会計	上位政策	水環境・土壌環境・地盤環境の保全			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	環境基本法第15条、16条 地下水の水質汚濁にかかる環境基準について (平成9年環境庁告示第10号) 水質汚濁防止法第15条	関係する計画、通知等	環境基本計画 第二部今四半世紀における環境政策の具体的な展開 第2章環境保全施策の体系 第1節環境問題の各分野に係る施策 3水環境、土壌環境、地盤環境の保全			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、地下水環境基準の超過率が高く、一層の対策の推進が必要であるが、汚染原因が多岐(施肥、家畜排せつ物、生活排水等)にわたり、汚染範囲が広範囲であることから、地域の汚染状況や窒素の循環を考慮した効率的・効果的な対策を検討することにより、環境基準の達成に資する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ol style="list-style-type: none"> 1 硝酸性窒素等による地下水汚染対策検討では、硝酸性窒素等による地下水汚染の特徴を踏まえ、窒素の循環を考慮した効率的・効果的な環境基準達成方策について検討する。また、地方自治体に対し、その地域における取組(対策推進計画の策定等)の円滑な実施を支援する。 2 硝酸性窒素対策の啓発では、硝酸性窒素対策啓発パンフレットを作成する。 3 全国の地下水質測定結果のとりまとめでは、全国の環境基準の達成状況を把握するため、都道府県等が行った地下水質測定結果をとりまとめ、集計・解析システムの更新を実施。 					
実施状況	<p>実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 硝酸性窒素等による地下水汚染対策検討では、窒素循環、窒素負荷低減対策、一酸化二窒素の排出状況等に関する情報を収集するとともに、各都道府県及び水質汚濁防止法の政令市(全155自治体)を対象に硝酸性窒素による地下水汚染対策等に関するアンケート調査を実施した。これらを踏まえ、環境分野や農業分野の学識者等で構成する検討会を農林水産省のオブザーバー参加のもと2回開催し、硝酸性窒素対策等の現状や課題、硝酸性窒素による地下水汚染対策マニュアルの見直しに向けた今後の進め方(案)を整理した。また、地域における取組を支援するため、各都道府県等(全155自治体)を対象にアンケート調査を実施し、取組支援への要望を把握した。 2 硝酸性窒素対策の啓発では、硝酸性窒素対策啓発用の一般向けのパンフレット「未来へつなごう私たちの地下水 気づいていますか?硝酸性窒素汚染」を作成し、都道府県等(全155自治体)に配布した。 3 全国の地下水質測定結果のとりまとめでは、集計・解析システムの更新及び都道府県等から報告された地下水質測定結果を基に、全国の環境基準の達成状況をとりまとめ、平成21年11月27日に公表した。 					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)		8	15	15	
	執行額		11	7		
	執行率		137.5%	46.7%		
	総事業費(執行ベース)		11	7		
支出先・用途の把握水準・状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 硝酸性窒素等による地下水汚染対策検討では、硝酸性窒素等の環境基準達成方策の検討業務に係る請負先の事業の実施状況について環境省職員が適宜請負先と連絡をとり進捗状況を把握するとともに、必要に応じ、打ち合わせを行って事業の的確な実施に向け必要な技術的指導を行った。また、有識者等で構成される検討会には環境省職員も参加し、検討会での議論が事業の内容に適切に反映されていることを確認した。 2 硝酸性窒素対策の啓発では、パンフレットの作成業務に係る請負先の事業の実施状況について環境省職員がパンフレットの校正段階及び納入時にチェックし、仕様書のとおり作成していることを確認した。 3 全国の地下水質測定結果のとりまとめでは、地下水質測定結果の集計・解析業務及び既存集計・解析システムの更新及び機能追加に係る請負先の事業の実施状況について環境省職員が、集計・解析作業の進捗状況、データの正確性を適宜チェックするとともに、システムが適正に更新等されていることを確認した。 					
自己点検	見直しの余地	<ol style="list-style-type: none"> 1 硝酸性窒素等による地下水汚染対策検討では、平成21年度に整理した硝酸性窒素対策等の現状や課題、今後の進め方(案)に基づき、引き続き、農業分野との連携を図りつつ、今後の進め方(案)が目指す硝酸性窒素による地下水汚染対策マニュアルの見直しに向け取組みを進めることが必要。更に、水循環の視点から見ると、流域内の水質は、窒素負荷量だけでなく水量にも関係することから、支援対象地域を含む流域内の水収支と窒素負荷量から、硝酸性窒素の流域循環シミュレーションモデルを作成し、将来予測を行うことにより、より実効性のある硝酸性窒素低減へ向けた取組みを進めることが必要。また、支援対象地域の選定・支援については、対象地域の現状や要望に十分留意することが必要。 2 硝酸性窒素対策の啓発では、今後、必要が生じた場合には、内容、周知方法等を精査したうえで、必要部数のみを作成する。 3 全国の地下水測定結果のとりまとめでは、地下水測定結果の集計・解析等は、地下水保全施策の評価をするうえで最も基本となるデータを得るものであることから、今後とも継続していくことが必要。平成21年11月に、塩化ビニルモノマー等の地下水環境基準への追加等がなされたことから、環境基準としての評価項目の追加、評価の集計・解析作業、システムの更新等において混乱の生じないよう、請負者と必要な打ち合わせを行い、効率的に事業を進める。 				
予算監視の所見						
補記						

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A. (株)ジオスケープ					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	平成21年度硝酸性窒素負荷低減等対策検討業務	3			
計		3	計		0
B. ソシオエンジニアリング(株)					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	平成21年度地下水質測定結果等集計・解析業務	3			
計		3	計		0
C.					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0